



wakayama
univ.

国立大学法人
和歌山大学

<http://www.wakayama-u.ac.jp/>

和歌山大学 私費外国人留学生特別入試 学生募集要項

Wakayama University

教育学部
経済学部
システム工学部
観光学部

平成28年度

2016

wakayama university

目 次

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）	1
I 募集人員	5
II 出願資格	5
III 出願手続	6
1. 出願期間および方法	6
2. 出願書類等	7
3. 出願書類等の提出先および照会先	8
4. 出願に関する注意事項	8
IV 入試方法等	8
1. 入試方法	8
2. 試験の日程および試験場	8
3. 受験上の注意	9
V 合格者の発表	9
VI 入学手続	9
1. 入学手続期間	9
2. 留意事項	9
VII 障害を有する入学志願者の事前相談について	9
VIII 入試情報の開示について	9
IX 個人情報の取り扱いについて	10
X 日本留学試験の照会先	10
XI TOEICおよびTOEFLの照会先	10
XII 学部の紹介	11
◎教育学部	11
◎経済学部	12
◎システム工学部	13
◎観光学部	15
XIII 入学案内	16
1. 入学時の諸経費等	16

添付書類（出願書類等）

1. 入学願書・写真票・受験票
2. 履歴書
3. 入学検定料「振込依頼書」
4. 納入確認票
5. あて名ラベル
6. 「私費外国人留学生特別入試受付通知」はがき
7. 「受験票在中」封筒
8. 「入学願書在中」封筒

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

1. 大学の教育目的

和歌山大学は、未来を自らの力で切り拓く社会人として、豊かな人間性とともな公共性を有し、環境にやさしい高度な専門的知識・技術を修得し、地域にあっても国際化を推進できる資質を持ち、そして、社会のニーズに的確に対応できる人材の育成を目的としています。

2. 大学のアドミッション・ポリシー

- (1) 学問への探究心にあふれ、課題解決のため意欲的に取り組むことのできる人
- (2) 明確な目的意識をもつ人
- (3) 新しいことに積極的に挑戦する意欲をもつ人

教育学部

1. 学部の教育目的

本学部は、人間と教育に関する深い理解と、科学・芸術・文化に関する専門的知識にもとづき、教育実践力を高めることで、次代を担う子どもたちの成長と発達を支援していくことのできる高度な資質・能力をもった教員の養成を目的とします。

この目的の実現をはかるために、初等教育コース・中等教育コース・特別支援教育コースの3つのコースをおきます。こうすることでキャリアパスを明確にし、自分のめざすべき進路に応じた専門教育を受けることができるようにしています。

初等教育コースでは、児童の発達や教科のつながりなどを総合的に捉え、小中連携の視野を持った小学校教員の養成をめざします。子どもと教育に関する専門的な知識と技能を修得するとともに、教育に関するさまざまな科学・研究分野を学びます。さらに、学校教育の基本的課題のみならず今日の学校内外で多発する複雑で深刻な教育問題に対応できる、総合的で実践的な教育的力量を身につけます。

中等教育コースでは、教科（分野）の専門性を深めつつ、中学校・高等学校教員の養成をめざします。子どもと教育に関する専門的な知識と技能を修得するとともに、学校における各教科に関する幅広く深い知識と専門的技量を修得します。さらに、文化の継承・発展という教育の基本的課題に対応できる、総合的で実践的な教育的力量を身につけます。

特別支援教育コースでは、学習に困難のある子どもや、発達が気になる子ども、障害のある子どもなど、特別なニーズを有する子どもの教育について、専門的知識や理論を身につけながら実践的な指導能力を養い、両者のバランスに優れた教員の養成を目的とします。最新の理論の修得に加えて、在学中から実際に子どもと接する機会を多く持ち、体験を通して学ぶことを重視します。

2. アドミッション・ポリシー

上記のような教育目的を達成するために、次のような意欲と資質をもった人を求めています。

全体に共通するものとして

- (1) 教員になりたいという熱意を持ち、子どもと共に学んでいく姿勢を持てる人
- (2) 子どもの様々な特性を理解し、周囲の人々と協力して支援していくことができる人

初等教育コース

- (1) 児童の発達や教科のつながりを広く学んで、小学校の教員をめざす人
- (2) 幼児教育と連携しつつ、小学校教育を考えたい人
- (3) 小学校教育と中学校教育の連携・接続を意識しつつ、小学校教育を考えたい人

中等教育コース

- (1) 教科の専門性を深め、中学校・高等学校の教員をめざす人

(2)中等教育段階の生徒の発達と学習を意識しつつ、中学校・高等学校教育を考えたい人

特別支援教育コース

- (1)特別支援学校教員をめざす人
- (2)幼稚園・小学校・中学校・高等学校において教育上特別なニーズを有する幼児・児童・生徒に対しても適切な支援を行える教員をめざす人
- (3)教育学，心理学，臨床学，医学，福祉学など，関連諸科学を横断し幅広い知識・技能を修得したい人

経済学部

1. 学部の教育目的

本学部は，経済学・経営学・会計学・情報学・法学など，多様化・複雑化する経済社会の問題発見・解決に不可欠な社会科学の諸分野の教員を揃え，次のような人材の育成を目的とします。

- (1)基礎学力（幅広い教養と論理的思考力）と広い視野（社会科学の諸分野の専門知識と実務能力）を礎として，多様で変化の激しい予測困難な社会を体系的に理解できる人材
 - (2)個人の自立と他者との協働を図りながら，経済社会のさまざまな問題を真摯に受け止め，その解決に向けて的確に判断し創造的・実践的・主体的に行動できる人材
- 具体的には，金融業・サービス業・製造業などの各種産業や，公務・会計・税務・法務・商業教育・調査研究等の分野において，国際社会および地域社会で活躍できる人材の育成を目指します。

2. アドミッション・ポリシー

上記のような教育目的に基づき，次のような人を求めています。

- (1)経済学・経営学・法学等を学ぶ上で必要となる幅広い基礎学力を有する人。
- (2)社会・経済における諸問題に関心を持ち，卒業後，専門知識を活かして関連分野で能力を発揮したい人。
- (3)主体的に学修し，新しいことに積極的に挑戦する意欲を有する人。
- (4)コミュニケーション能力を持ち，協調性があり活発に議論ができ，リーダーシップを有する人
また，特にスポーツ推薦入試では次のような人を求めます。
- (5)スポーツマネジメントに関心を持ち，関連する経営学・経済学などの専門領域の学修に積極的に取り組める人。
- (6)スポーツの実践・普及・振興に関心を有する人。

3. 入学者選抜の基本方針

本学部では，一般入試（前期日程・後期日程）のほか，推薦入試・スポーツ推薦入試・社会人特別入試・帰国子女特別入試・私費外国人留学生特別入試および第3年次編入試など，複数の入学者選抜方式を採用することで，多様な人材の受け入れを目指しています。

- (1)一般入試（前期日程）では，大学入試センター試験で5～6教科の基礎的・総合的学力をみるとともに，個別学力検査では英語と数学を実施します。
- (2)一般入試（後期日程）では，大学入試センター試験で外国語を含む2～3科目の基礎的な学力をみるとともに，個別学力検査（小論文）の配点を大きくとることで，社会科学を学ぶ上で必要な理解力（読解力）・論理的な思考力・表現力（文章力）に秀でた人を求めます。
- (3)推薦入試では，高等学校において優秀な学業成績を収め，かつ，社会科学を学ぶ上で必要な理解力（読解力）・論理的な思考力・表現力（文章力）を有するとともに，高いコミュニケーション能力を有する人を求めます。
- (4)スポーツ推薦入試では，高等学校において優秀なスポーツ成績と良好な学業成績を収め，かつ，社会科学を学ぶ上で必要な理解力（読解力）・論理的な思考力・表現力（文章力）を有するとともに

に、高いコミュニケーション能力を有する人を求めます。
(5)以上のほか、社会人特別入試・帰国子女特別入試・私費外国人留学生特別入試および第3年次編入試を行い、多様な人材の受け入れを目指します。

システム工学部

1. 学部の教育目的

工学ではなく「システム工学」という学部名称には、教育対象の複合性・総合性が意識されています。したがって本学部の教育目的としてまず第一に、

(1) 視野を広く持ち、技術を体系的に理解できる能力を養う

ことをあげなければなりません。

しかし、初めて高等教育を受ける受験生に対して、総合力だけに重点をおくこともできません。よって、

(2) 専門領域に応じた基礎学力・基礎技術を確実に修得させる

こともまた必要です。すなわち、本学部では専門性にある程度の幅をもたせて科学技術の教育を行うことを目的とします。

「システム」にはまた応用性を重視するという意味合いも含まれています。

本学部では実学教育を旨とし、

(3) 産業・社会のニーズに即応できる実践力を養うこと

も目的として掲げています。

これには、知識と技術を実際の製造物に応用できる能力とともに、システムを開発・運用するプロセスに必要なコミュニケーション能力を養うことも含まれます。

2. アドミッション・ポリシー

前節で設定した教育目的を実現するため、本学部の受験生に対し、下記のようなアドミッション・ポリシーを掲げています。高等学校等で履修すべき具体的な教科・科目等については、入学者選抜実施教科・科目を参考にしてください。

(1) 工学系大学教育にたえるため、理数系の基礎知識と問題解決能力を求める。

(2) システム工学特有の複合領域の大学教育に適合するよう、論理的思考力と状況判断力、さらに高い倫理感を求める。

(3) 今日の技術者・研究者に必要な英語力とコミュニケーション力の素養を求める。

観光学部

1. 学部の教育目的

21世紀は「観光の時代」と言われ、世界のあらゆる国・地域で最も有望な成長分野として観光が注目を集めています。わが国においても観光は戦略産業と位置づけられ、官民一体での「観光立国」実現に向けた政策や取り組みが加速するなか、観光産業や行政の現場と密接に連携しながら、新しい観光学の創造および観光を支えるに相応しい豊かな教養と専門性ならびにグローバル時代に対応したハイレベルな国際的・学際的視点を持つ観光人材の輩出が期待されています。

このような背景のもと、観光学部では「観光経営」・「地域再生」・「観光文化」という3つの基本領域（コース）の相互関係として観光学の学問体系の全体像を認識しつつ、このうちのいずれかの領域に主たる専門性（より深い教養）を発揮できる人材を養成することを目指します。

現代社会で求められる実践的な諸課題に対しては、専門性を活かして応用することができる「包括的対応力（ジェネリックスキル）」が必要です。英語による専門科目の履修機会を飛躍的に増加させることにより、異文化コミュニケーション力を高め、グローバル化した社会状況への高度な対応力を涵養することを重視します。さらに、地域の諸課題に取り組む実践型教育の機会を拡充することにより、オンサイトでの創造的実践力を身に付けることを目指します。

2. アドミッション・ポリシー

- (1) 学問への探究心にあふれ、課題解決のために論理的に思考できる人
- (2) 明確な目的意識を持ち、新しいことに積極的に挑戦できる人
- (3) 高いコミュニケーション能力を持ち、リーダーシップを発揮できる人
- (4) 観光に関連する組織体の経営問題に関心がある人
- (5) 観光を通じた地域再生の問題に関心がある人
- (6) 国際的な交流や、国内外の様々な地域の文化に関心がある人
- (7) インターンシップやフィールド調査などの学外実習に意欲的に取り組むことのできる人
- (8) 大学で修得した知識を活用して社会で活躍したい人

I 募集人員

学 部	学科・課程・系	募集人員
教 育 学 部 (※1)	学校教育教員養成課程	文科系
		理科系
		実技系
経 済 学 部	経 済 学 科	若干名
シ ス テ ム 工 学 部	シ ス テ ム 工 学 科	若干名
観 光 学 部	観 光 学 科	若干名

(※1)教育学部では、入学後に各コース・専攻への所属を決定することとしており、募集区分と入学後の各コース・専攻の対応は次のとおりです。

募集区分		入学後のコース・専攻		
学校 教育 教員 養成 課程	文科系	初等教育コース	教育学，心理学，国語科教育，英語教育，社会科教育，家庭科教育，音楽科教育，図画工作科教育，体育科教育	
		中等教育コース	教育学，心理学，国語科教育，英語科教育，社会科教育，家庭科教育，音楽科教育，美術科教育，保健体育科教育	
		特別支援教育コース	特別支援教育学	
	理科系	初等教育コース	教育学，心理学，算数科教育，理科教育，家庭科教育，音楽科教育，図画工作科教育，体育科教育	
		中等教育コース	教育学，心理学，数学科教育，科学教育，家庭科教育，音楽科教育，美術科教育，保健体育科教育	
		特別支援教育コース	特別支援教育学	
	実技系	音楽又は 美術	初等教育コース	音楽科教育 図画工作科教育
			中等教育コース	音楽科教育 美術科教育
		保健体育	初等教育コース	体育科教育
中等教育コース			保健体育科教育	

(注) なお上記の欄は変更されることがあります。

(注) 「実技系」を受験し、合格した人は、入学後、専攻の変更は認めません。

II 出 願 資 格

次の(1)~(4)のすべてに該当する者。

- (1) 日本国籍を有しない者（日本国の永住許可を得ている者を除く）で、日本の大学において教育を受ける目的をもって入国した者のうち、次の①または②に該当する者。
 - ① 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者または平成28年（2016年）3月までに修了見込みの者もしくはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
 - ② 国際バカロレア資格，アビトゥア資格またはバカロレア資格（フランス共和国）を有する者で平成28年（2016年）3月31日までに18歳に達する者。（いずれかの資格を外国で取得した者）
- (2) 出入国管理及び難民認定法に規定する「留学」の在留資格を有する者および取得する見込みの者。
- (3) 独立行政法人日本学生支援機構が実施する日本留学試験を受験した者でそれぞれの成績が次表に示す点数以上である者。
- (4) 経済学部，システム工学部および観光学部の志願者にあつては，TOEICまたはTOEFLの得点が次表に示す点数以上である者。

試験 学部・学科・課程・系			日本留学試験					TOEIC	TOEFL		
			日本語	総合科目	理科	数学	得点等		摘要	PBT (ペーパー試験)	iBT (インターネット試験)
教育学部	学校教育 教員養成 課程	文科系	○	○	×	「コース1」	各科目の得点が平均点以上	「理科」は物理、化学、生物から2科目を選択する。 「総合科目」「理科」「数学」の出題言語は日本語とします。	×	×	×
		理科系	○	×	○	「コース2」					
		実技系	○	総合科目または理科のいずれか		「コース1」または「コース2」のいずれか					
経済学部	経済学科	○	○	×	「コース1」	「日本語」の得点が200点以上 「総合科目」と「数学」の合計得点が240点以上	「総合科目」「数学」の出題言語は、日本語、英語のいずれも可とします。	450点以上	440点以上	42点以上	
システム工学部	システム工学科	○	×	○	「コース2」	「日本語」の得点が200点以上 「数学」と「理科」の合計得点が240点以上	「理科」の選択科目については、下記のとおりです。 各科目の出題言語は、日本語、英語のいずれも可とします。	410点以上	390点以上	29点以上	
観光学部	観光学科	○	総合科目または理科のいずれか		「コース1」または「コース2」のいずれか	各科目の得点が平均点以上	「理科」は物理、化学、生物から2科目を選択してください。 「総合科目」「理科」「数学」の出題言語は、日本語、英語のいずれも可とします。	450点以上	440点以上	42点以上	

- (注) 1. 日本留学試験で成績を利用できるのは、平成27年度(2015年度)の6月、11月のいずれかの試験結果とします。
2. 経済学部、システム工学部および観光学部の志願者で、TOEIC、TOEFLで利用できる成績は、入試期日からさかのぼること1年以内に受験した試験結果とします。
3. システム工学部の志願者の日本留学試験の「理科」の選択科目に関しては物理、化学、生物のうち任意の2科目を選択とします。
4. 日本留学試験の「日本語」に関して、「記述」の点数は利用しません。

Ⅲ 出願手続

1. 出願期間および方法

学部	出願期限	出願方法
教育学部	平成28年(2016年) 1月5日(火)～1月7日(木) ※ 郵送の場合は出願締切日必着	(1) 持参または書留郵便による受付とします。 持参、郵送にかかわらず、この要項に添付してある本学所定の出願用封筒を使用し、出願書類一式を入れ、提出してください。 (2) 持参の場合、受付時間は午前9時から午後4時までとします。 ただし、正午から午後1時の間を除きます。
経済学部		
システム工学部		
観光学部		

2. 出願書類等

	出願時に必要な書類等	摘 要
◇ ◇ ◇	入 学 願 書 写 真 票 受 験 票	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙に必要事項を日本語で記入してください。 ・ 写真票・受験票の所定の場所に写真を貼付してください。 なお、写真（大きさはタテ5cm×ヨコ3.5cm）は、脱帽、正面向、上半身で出願前3ヶ月以内に撮影したものとします。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 入学願書の裏面に志望理由を記入してください。
◇	履 歴 書	所定用紙に日本語または英語で記入してください。 記載事項は、志願者本人が記入してください。
	卒業（修了）証明書 または 卒業（修了）見込証明書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最終学歴の卒業（修了）証明書または卒業（修了）見込証明書（コピーは不可）を提出してください。（日本語の訳文を添付してください。） ・ 国際バカロレア資格取得者（スイス）は、国際バカロレア資格証書（コピー可）を提出してください。 ・ バカロレア資格取得者（フランス）は、バカロレア資格証書（コピー可）を提出してください。
	成 績 証 明 書	最終学歴の出身学校長が作成した成績証明書（コピーは不可）を提出してください。（日本語の訳文を添付してください。） <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際バカロレア資格取得者（スイス）は、国際バカロレア資格最終試験6科目の成績証明書（コピー可）を提出してください。 ・ アビトゥア資格取得者（ドイツ）は、一般的大学入学資格証明書（コピー可）を提出してください。 ・ バカロレア資格取得者（フランス）は、バカロレア資格試験成績証明書（コピー可）を提出してください。
	日 本 留 学 試 験 の 成 績 通 知 書	平成27年度（2015年度）日本留学試験（6月実施分または11月実施分）の成績通知書（コピー）を提出してください。
※	TOEICまたはTOEFL の ス コ ア シ ー ト	経済学部、システム工学部および観光学部の志願者は、入学試験日からさかのぼること1年以内に受験したTOEICまたはTOEFLの次のスコアシート（コピー可）を提出してください。団体特別受験制度（TOEIC IP：Institutional Program, TOEFL ITP：Institutional Testing Program）により受験した成績は認めません。 ①TOEIC TESTによる出願者：Official Score Certificate（公式認定証） ②TOEFL TESTによる出願者：ETS（Educational Testing Service）から送付されたExaminee Score Report
	在 留 カ ー ド ま た は 旅 券 の 写	「在留カード」の交付を受けている外国人は、カードの表面と裏面のコピーを提出してください。 「在留カード（または外国人登録証明書）」の交付を受けていない者は、パスポートのコピー（国籍、氏名等が記載されたページと在留資格・在留期間等が記載されたページ）を提出してください。
◇	入 学 検 定 料 （ 振 込 依 頼 書 ）	17,000円 所定の用紙「振込依頼書」により金融機関（ゆうちょ銀行を除く）の窓口で振込により納入し、受領した「振込金受付証明書（C票）」（※取扱金融機関の収納印のないものは無効です。必ず確認してください。）を「納入確認票」に貼り付けて提出してください。 （注）出願書類受領後は入学検定料の返還はできません。
◇	納 入 確 認 票	入学検定料の「振込金受付証明書（C票）」を貼り付けてください。
◇	「受験票在中」封筒	志願者の郵便番号、住所、氏名を記入し、必ず362円切手を貼ってください。 団地・アパート等に居住している者は、棟番号、戸番を入れ、間借りをしている者は「〇〇様方」と詳しく記入してください。（整理番号欄は記入しないでください。）
◇	あ て 名 ラ ベ ル	合格通知等を受け取る場所、氏名、郵便番号を記入してください。 なお、出願後に移動した場合は速やかに届け出てください。
◇	私 費 外 国 人 留 学 生 特 別 入 試 受 付 通 知 は が き	郵便番号、住所、氏名、志望学部を記入し、52円切手を貼り、出願書類とともに、提出してください。52円切手の無いものは送付できません。

◇印は、本募集要項に添付の様式を表します。

※印は、経済学部、システム工学部および観光学部の志願者のみ提出してください。

「コピー」を提出する場合は、必要に応じ原本の提示を求め場合があります。

3. 出願書類等の提出先および照会先

出願書類等は、志望学部の入試担当係あてに持参または郵送により提出してください。
また、受験等に関することは、次の表の各学部入試担当係へ直接照会してください。

学 部	担 当 係	所 在 地	電 話 (直 通)
教 育 学 部	教 育 学 部 教 務 係	〒640-8510 和歌山市栄谷930番地	(073) 457-7219
経 済 学 部	経 済 学 部 教 務 係		(073) 457-7805
シ ス テ ム 工 学 部	シ ス テ ム 工 学 部 教 務 係		(073) 457-8021
観 光 学 部	観 光 学 部 教 務 係		(073) 457-8542

4. 出願に関する注意事項

- (1) 提出書類に不備があるときは、受け付けないで返却することがありますので、充分点検の上、提出してください。
- (2) 提出書類は正確に記入してください。記入事項に偽りがあったときは、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。
- (3) 出願手続後は、どんな事情があっても書類記載事項の書き換えは認めません。
また、一度受理した出願書類は、いかなる理由があっても返還しません。
- (4) 教育学部学校教育教員養成課程に入学した場合、日本国の教員免許状取得が卒業要件となります。12頁の説明(点線枠内)を充分理解した上で、出願してください。
- (5) 出願後、受信場所等の変更があった場合は上記担当係まで連絡してください。

IV 入 試 方 法 等

1. 入試方法

入学試験は、大学入試センター試験を免除し、独立行政法人日本学生支援機構が実施する日本留学試験、本学が実施する学力検査、面接および出願書類等により行います。

●学力検査等

	日本留学試験				本学が実施する学力検査等		配点合計	備 考
	日本語 (<small>「記述」は除く。</small>)	総合科目	理科	数学	日本語による 筆記試験	面接 (日本語)		
教育学部	○ 400	※ 200	※	○ 200	○ 400	○ 400	各学部上段の○印は選抜の対象とすることを表し、下段の数字は配点を表します。 なお、日本留学試験の科目の選択は、6頁の各学部の出願資格の表によります。 ※印の「総合科目」と「理科」の選択は、6頁の出願資格の表によります。	
経済学部	○ 400	○ 200	× -	○ 200	× -	○ 1200		
システム工学部	○ 400	× -	○ 200	○ 200	× -	○ 800		
観光学部	○ 400	※ 200	※	○ 200	× -	○ 800		

2. 試験の日程および試験場

◎入学試験日：平成28年(2016年)2月19日(金)

学 部	試 験 内 容	試 験 時 間	試 験 場
教 育 学 部	日本語による筆記試験	11:00~12:30	和歌山大学教育学部 (和歌山市栄谷930番地)
	面接	13:30~	
経 済 学 部	面接	13:30~	和歌山大学経済学部 (和歌山市栄谷930番地)
シ ス テ ム 工 学 部	面接	13:30~	和歌山大学システム工学部 (和歌山市栄谷930番地)
観 光 学 部	面接	13:30~	和歌山大学経済学部講義棟 (和歌山市栄谷930番地)

3. 受験上の注意

試験当日は、本学の受験票、日本留学試験の受験票（独立行政法人日本学生支援機構発行のもの）および筆記用具を持参してください。

なお、受験票を忘れた者は、係員に申し出てください。

また、本学の受験票は、入学手続の際に必要ですので、試験終了後も大切に保管してください。

V 合格者の発表

平成28年（2016年）3月6日（日）午前9時

和歌山大学構内の所定の掲示板に合格者の受験番号を掲示するとともに、合格者には郵便で通知します。

電話等による入試結果についての問合せには一切応じません。

VI 入学手続

合格者は、下記の入学手続期間内に入学手続を行ってください。詳しくは、合格通知書とともに郵送される書類をご覧ください。

1. 入学手続期間

平成28年（2016年）3月14日（月）および3月15日（火）

2. 留意事項

上記手続期間内に入学手続を行わなかった場合は、本学への入学を辞退したものと取り扱います。合格者が平成28年（2016年）3月末までに出願資格を満たさなかった場合には、合格を取り消します。**入学に際し、在留資格は、「留学」であることが必要です。**「留学」でない方は、法務省（地方入国管理局）にて、在留資格を「留学」に変更してください。なお、在留資格「留学」が取得できない間は、留学生としての奨学金の受給申請等の制度を利用できません。

VII 障害を有する入学志願者の事前相談について

障害(学校教育法施行令第22条の3に定める障害の程度)を有する志願者は、受験上および修学上特別な配慮を必要とすることがありますので、出願前に次の表の各学部入試担当係まで申し出てください。

学 部	担 当 係	所 在 地	電 話 (直 通)
教 育 学 部	教 育 学 部 教 務 係	〒640-8510 和歌山市栄谷930番地	(073) 457-7219
経 済 学 部	経 済 学 部 教 務 係		(073) 457-7805
シ ス テ ム 工 学 部	シ ス テ ム 工 学 部 教 務 係		(073) 457-8021
観 光 学 部	観 光 学 部 教 務 係		(073) 457-8542

VIII 入試情報の開示について

(1) 志願者数、受験者数、合格者数、入学者数は本学ウェブサイト等で開示します。前年度分については掲載中です。

URL : <http://www.wakayama-u.ac.jp/admission/index.html>

(2) 過去の試験問題（教育学部のみ）は、入試課で閲覧できます。詳細は、入試課入試係までお問い合わせください。

(3) 試験成績については、受験者本人からの申請により以下のとおり開示します。遠隔地の受験者の場合、郵送による開示請求も可能です。

- ① 開示時期：平成28年（2016年）5月から6月の2ヶ月間。月曜日から水曜日（祝祭日を除く）の9時から17時。
- ② 開示内容：本学が実施する筆記試験および面接のそれぞれの得点を開示します。
- ③ 必要書類：本学の受験票
- ④ 開示場所：受験した学部の入試担当係

(4) 問合せ先および開示場所

事 項	学 部	担当係（開示場所）	所 在 地	電 話（直通）
試 験 問 題 正解・解答例	教 育 学 部	入 試 課 入 試 係	〒640-8510 和歌山市栄谷930番地	(073) 457-7116
試 験 成 績	教 育 学 部	教 育 学 部 教 務 係		(073) 457-7219
	経 済 学 部	経 済 学 部 教 務 係		(073) 457-7805
	システム工学部	システム工学部教務係		(073) 457-8021
	観 光 学 部	観 光 学 部 教 務 係		(073) 457-8542

IX 個人情報の取り扱いについて

個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人和歌山大学における個人情報の保護に関する規程」に基づいて取り扱います。

1 出願に当たって知り得た氏名、住所、成績その他の個人情報及び入学者選抜にて得られた、試験成績等の個人情報については、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格者発表、③入学手続業務、④入学後の教育指導等及び今後の入学者選抜方法の検討資料等の作成、⑤その他、本学における諸調査・研究等のために利用します。

また、入学者のみ⑥教務関係（学籍、修学指導等）、⑦学生支援関係（健康管理、就職支援、授業料免除・奨学金申請等）、⑧授業料等徴収関係の業務を行うために利用します。

なお、上記のように個人情報を利用する場合は、適正な管理に努めます。

2 上記1の各種業務での利用にあたっては、一部の業務を本学より当該業務の委託を受けた業者（以下「受託業者」という。）において行うことがあります。

については、受託業者に対して、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、知り得た個人情報の全部または一部を提供します。

X 日本留学試験の照会先

〒153-8503 東京都目黒区駒場4-5-29

独立行政法人日本学生支援機構 留学生事業部留学試験課

TEL (03) 6407-7457 FAX (03) 6407-7462 E-Mail eju@jasso.go.jp

XI TOEICテストおよびTOEFLの照会先

〔TOEICテスト〕

財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会

公式ウェブサイト（日本語） <http://www.toeic.or.jp/>

〔TOEFL〕

国際教育交換協議会

公式ウェブサイト <http://www.ets.org/toefl>

日本語版ウェブサイト <http://www.cieej.or.jp/>

XII 学部の紹介

◎教育学部

教育学部は、その前身を明治期に発足した師範学校におく、本学でもっとも古い歴史をもった学部です。昭和24年（1949）新制和歌山大学では学芸学部、その後、教育学部と学部名称は変わりますが、その間一貫して教員養成を通じて地域社会に大きな貢献をしてきました。

平成元年（1989）に教員養成以外にも視野を広げた、教員免許状取得を目的としない新課程を設置し、組織や名称を変更しながら今日まで継承してきましたが、平成27年（2015年）入学者をもって終了し、学校教育教員養成課程に一本化しました。これは、少子化や学力低下、いじめや不登校など、深刻化し、複雑化していく諸問題に対応するため、教員養成に学部の力を集約させることを狙った改革です。これまで新課程が担った、学校の外への視点や幅広い教養を教員養成課程に取り込みつつ、これらの問題解決にあたることを考えています。

この課程には初等教育コース、中等教育コース、特別支援教育コースの3つのコースをおきます。このようにキャリアパスを明確にすることで、自分のめざすべき進路にまっすぐに向かうことができるようにしました。もっとも、それぞれのコースは相互に関連しているので、それらをつなぐ視点も大切にしています。具体的には幼・小連携、小・中連携を視野に入れ、さらに特別支援教育とつなぐなど、複数免許の取得も可能です。

本学部が力を入れていることの一つに、実践力の向上があります。これは単に「即戦力の養成」というとは少し違います。実際、多様な学校現場ですぐに役に立つ人材になるのは至難です。大切なことは、困難な教育現場にあって、日々悩みながら同僚たちと協働して子どもの支援に向かう覚悟と姿勢を準備することです。

そのためには、自主的で多様な教育経験が必要になります。教育実習はその最大のものですが、それ以外にへき地複式実習のようなオプションの実習、経験豊かな現場教員の授業、さらには教育ボランティアや教育系のサークルなど課外の活動も多く用意されています。これらを通じて、悩みながら成長し続ける教員になっていけるよう支援しています。

初等教育コース

このコースは児童の発達や教科のつながりなどを総合的に捉え、小中連携の視野を持った小学校教員の養成をめざします。子どもと教育に関する専門的な知識と技能を修得するとともに、教育に関するさまざまな科学・研究分野を学びます。さらに、学校教育の基本的課題のみならず今日の学校内外で多発する複雑で深刻な教育問題に対応できる、総合的で実践的な教育的力量を身につけます。

このコースでは初等（小学校）の専門性を高めるために「初等エキスパート科目」を設定し、教職分野の力や小学校教科の指導法および教科内容の力をつけます。また小中連携を意識した「小中連携科目」の履修により校種間のつながりを意識した学びができます。このコースでは卒業要件として、〔小学校教員免許1種〕の取得が課せられます。本人の希望により幼稚園教員免許や中学校教員免許、高等学校教員免許、特別支援学校教員免許の取得が可能です。卒業後の進路としては、小学校を中心として、幼・中・高・特別支援学校の教員のほかに、心理職、児童施設指導員、障害者施設指導員、公務員、大学院進学などがあります。

中等教育コース

教科（分野）の専門性を深めつつ、中学校・高等学校教員の養成をめざします。子どもと教育に関する専門的な知識と技能を修得するとともに、学校における各教科に関する幅広く深い知識と専門的技量を修得します。さらに、文化の継承・発展という教育の基本的課題に対応できる、総合的で実践的な教育的力量を身につけます。

このコースでは教科の専門性を高めるために「中等エキスパート科目」を設定し、教職分野の力や中学校・高等学校教科の指導法および教科内容の力をつけます。このコースでは卒業要件として、〔中学校教員免許1種〕の取得が課せられます。本人の希望により小学校教員免許、高等学校教員免許、特別支援学校教員免許の取得が可能です。卒業後の進路としては、中学校・高等学校を中心として、小・特別支援学校の教員のほかに、諸種の教育関係職、公務員、大学院進学などがあります。

特別支援教育コース

このコースでは、特別支援教育に関する専門的な知識と技能を修得します。通常の教師としての資質を高めながら、学習や発達に困難のある児童生徒や、心身に障害を有する児童生徒など、教育上特別なニーズを有する子どもの指導、支援に関する高度な専門性を身につけることが目標です。

授業では、特別支援教育に関する教育学、心理学、指導法、医療、福祉について、系統的な知識や技術を学ぶとともに、教育の時代的な変化の背景にある思潮や、教育の原理、歴史についても学習し、表面的スキルの修得に終わらない深い学びをめざします。さらに子どもと接する機会を多く設け、体験を通して学ぶことができる授業を展開しています。

このコースの卒業要件として、〔小学校教員免許1種〕または〔中学校教員免許1種〕の取得に加えて、〔特別支援学校教員免許1種〕を取得することになります。

卒業後の進路は、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員のほかに、福祉施設職員、公務員、一般企業、大学院進学などがあります。

学校教育教員養成課程は、教育職員免許状の取得が卒業の条件になっています。このため、一般的な講義・演習の授業の他に免許取得に必要な授業や小学校、中学校等での教育実習が課せられます。教育実習には次の実習があります。

- ・教育実習入門Ⅰ：1年次8～9月（4日間）
- ・教育実習入門Ⅱ：2年次8～9月（4日間）
- ・教育実習（本実習）：3年次9月（4週間）

さらに、副免許として別校種の免許を取得する場合は、4年次に2週間の実習に参加する必要があります。また、上記教育実習の他に2年次に社会福祉施設・特別支援学校で7日間の「介護等体験」を行う必要があります。

このように学校教育教員養成課程は、卒業までに多くの免許関連授業や実習が必要となることを十分に理解した上で出願してください。

◎経済学部

本学部は、1922年（大正11年）に創立された旧制和歌山高等商業学校以来の伝統を受け継ぎ、100年近くにわたって社会に多くの優れた人材を送り出してきました。この間、時代と社会の要請にこたえながら、経済社会の理解に不可欠な学問分野である経済学、経営学、会計学、情報学、法学の教員を揃え、論理的思考力、専門知識、実務能力、幅広い教養を有する人材の養成に努めてきました。卒業後の進路は、金融・製造・流通・情報・公務など多様な業種にわたり、昨今の厳しい就職状況下でも就職率は高い水準を保っています。また、本学大学院経済学研究科修士課程に進学する学生もいます。優秀な成績を修めた学生は、3年次修了時点で大学院に進学できる制度が設けられています。

近年の多様化・複雑化する社会においては、複数の学問分野にまたがる専門知識を活用し、一人ひとりが他の人と協力しながら問題を発見・解決する能力が求められています。そのような能力・資質を身につけるために、本学部のカリキュラムは、経済学、経営学、会計学、情報学、法学の各学問領域での体系的な学修に加え、これらのうちのいくつかの学問領域の学修を組み合わせています。その上で、卒業後の進路において必要となる専門知識や実務能力などを考慮して横断的な学問領域における授業科目を体系化しています。学生は初年時から将来の自分の姿を思い描きながら主体的・計画的に学修を進めます。このカリキュラムでは、学修目標とそれによって目指せる可能性のある代表的な進路を想定し、次の「プログラム」を設けています。

「グローバル・ビジネス&エコノミー」

グローバルな視点から経済領域・経営領域で種々の課題に対応できる能力を身に付け、グローバル企業、国際機関、NPO・NGOなどにおいて中心的な役割を担える人材となることを目指します。

「企業分析・評価」

企業の資金調達・運用から事業譲渡など、銀行の融資審査や証券会社の引受、会計事務所のコンサルティング業務、一般企業のファイナンス関連業務などで企業価値の分析および評価を行うことができる人材となることを目指します。

「ビジネスデザイン」

新たな視点から事業、企業の再活性化に取り組める能力を身に付け、企業の企画部門などにおいて、高い企画力を持って組織変革や業務改善を担える人材や、起業家などを目指します。

「企業会計・税法」

会計学及び税法の視点からの実務能力を身に付け、企業の経理・財務部門において、会計・法制度の知識をもとに組織活性化の支援に取り組む人材や、税理士、公認会計士、不動産鑑定士、国家・地方公務員などを目指します。

「地域公共政策・公益事業」

地域社会における課題解決能力を身に付け、地域の活性化を支援する国家・地方公務員や、公益性の高い事業主体の職員などを目指します。

「サステナブル・エコノミー」

経済における持続可能性を実現できる多様性・柔軟性を有する能力を身に付け、企業のCSR関連部門、社会的企業、環境NGO・NPOなどにおいて、多様な利害関係者と各組織の橋渡しとなる人材となることを目指します。

◎システム工学部

近年、科学技術の急速な発展に伴い、さまざまな工業技術が高度化・専門化してきました。また、一方で、エネルギー、環境、情報のようにグローバルに変化する課題から地域の産業の再生や振興といった課題にも対処することが要求されるようになってきました。前者は各専門分野の分化、後者は専門分野の統合・総合化を示唆しています。

このような状況の下にある産業界や社会の要請により柔軟に対応できるよう、システム工学部では平成27年、これまでの5学科（情報通信システム学科、光メカトロニクス学科、精密物質学科、環境システム学科、デザイン情報学科）を1学科（システム工学科）へと改組をおこないました。システム工学科には、10教育研究領域（メジャー）を設定し、学生自らが将来を志向し、自らの興味や資質に見合った領域を主体的に選択することができます。具体的には、2つのメジャーを選択することによってコースを構成し、学科に相当する専門分野を学ぶことができます。これによりこれまでの学科の枠組みに固執することなく、広範かつ柔軟な専門性をもった応用力・適用力が養われることが期待されます。以下に、各メジャーの教育目的とともにいくつかのコースを示します。

・メジャー：機械電子制御

機械電子制御メジャーでは、幅広い視点から論理的思考をもって問題の解決にあたることができる技術者をめざして、機械工学、応用数学などの素養を身につけた後、制御工学、ロボット工学などのシステム論を用いた設計、運用に関する専門技術について学びます。

・メジャー：電子計測

電子計測メジャーでは、人々の生活や産業を支える情報のセンシングや処理システムを創造できる技術者の育成をめざして、電気電子工学や光工学の基礎と、計測デバイスや計測情報処理などの要素技術、さらにこれらを統合した計測システムについて学びます。

・メジャー：応用物理学

応用物理学メジャーでは、物質におけるナノスケールの世界を探求し、新しい材料やデバイスの開発に対する社会のニーズに柔軟に対応できる能力を身につけられるように、物性物理学、材料科学、電子工学にわたる専門分野を学びます。

- ・メジャー：化学
化学メジャーでは、化学に関わる基本的法則を学んで物質に関する理解の基盤を作った後、ナノレベルの世界における化学現象や法則、原子・電子レベルでの相互作用の発現や、新たな機能性物質の設計・開発などの専門技術について学びます。
- ・メジャー：知能情報学
知能情報学メジャーでは、人間とコンピュータの新たな関係が再構築される時代において、科学者や技術者として活躍できる人材を育成するための専門教育を行い、人工知能やロボット、視覚情報処理、コンピュータグラフィクスなどについて学びます。
- ・メジャー：ネットワーク情報学
ネットワーク情報学メジャーでは、インターネット上に構築される、新たな情報ネットワーク社会において、科学者や技術者として活躍できる人材を育成するための専門教育を行い、モバイル通信やWebシステム、ビッグデータの解析などについて学びます。
- ・メジャー：環境科学
環境科学メジャーでは、環境を守り、育て、次世代に継承する人材の育成をめざして、環境破壊を未然に防ぐ、自然災害から命や暮らしを守る、地球温暖化に対応する、美しい風景を創造するなど、持続可能な社会の実現に貢献するための知識と技能を学びます。
- ・メジャー：環境デザイン
環境デザインメジャーでは、人と自然のよりよい関係を具現化できる人材の育成をめざして、自然から生活空間にいたる環境を一体として捉え、自然再生、防災緑化、自然エネルギーなど自然と調和する技術、景観保全やまちづくり、建築設計などの計画技術について学びます。
- ・メジャー：メディアデザイン
メディアデザインメジャーでは、メディアデザインと情報の双方の知識を持つ人材の育成をめざして、情報技術としてのサウンドやビジュアルのデザイン、人間工学に基づくインタフェースデザイン、さらにその基礎となるデザイン制作や企画方法について学びます。
- ・メジャー：社会情報学
社会情報学メジャーでは、人や社会を豊かにする情報システムを企画・設計する能力を身につけます。情報技術に支えられた社会の仕組みを知り、新しい情報システムの可能性を探求するために、ソフトウェア開発や高度なコミュニケーションについて学びます。

代表的なコースとそれを構成するメジャー、期待される就職先

コース名	メジャー名	期待される就職先
ロボティクス	機械電子制御 電子計測	機械・電機、自動車、精密機械
ナノテクノロジー	応用物理学 化学	半導体・電子部品、精密機器、化学・医薬品・化粧品、素材
コンピュータサイエンス	知能情報学 ネットワーク情報学	情報・通信、ITサービス、電機
デザインシステム	社会情報学 メディアデザイン	情報・通信、ITサービス、出版・印刷
環境システム	環境デザイン 環境科学	公務員（土木、建築、造園）、建築・住宅、環境プラント
環境化学	環境科学 化学	環境職公務員、環境測量士
電気電子工学	応用物理学 電子計測	電気電子メーカー、精密機械
知能機械システム	機械電子制御 知能情報学	自動車、電機、精密機械、生産機械、医療機器、情報通信産業、ゲーム・アミューズメント
ネットワーク社会システム	ネットワーク情報学 社会情報学	情報通信、サービス産業、ゲーム・アミューズメント

○システム工学部では、スーパーサイエンスティーチャープログラムを設けます。

これはシステム工学部卒業後、本学教育学研究科に進学し高校の理科の教員免許の取得を目指すコースです。

◎観光学部

21世紀は「観光の時代」。世界のあらゆる国や地域で最も有望な成長分野として注目されるのが観光です。日本においても観光は戦略産業と位置づけられ、官民一体での「観光立国」実現に向けた政策や取組が加速するなか、観光産業や行政の現場と密接に連携しながら、新しい観光学の創造および観光を支えるに相応しい豊かな教養と専門性、さらにはグローバル時代に対応したハイレベルな国際的・学際的視点を有する観光人材の輩出がますます期待されています。和歌山大学観光学部は、観光教育研究における日本の、そしてアジアの拠点として、これらの人材養成に応えるべくさらに進化します。

観光学部の特色

- ①観光学は人間の生活・文化に関わるあらゆる分野を総合した学問であることから、人文・社会科学から自然科学までの幅広い分野を融合的・横断的に学ぶことのできる充実したカリキュラムを用意しています。
- ②最先端の観光理論を学ぶことはもちろん、教員と学生が自治体と連携して地域課題の解決に取り組むプログラムや海外の連携大学等と共同で取り組むエリアスタディ等の機会を通じて、社会の各方面から即戦力として期待される実践力が身につきます。
- ③ハイレベルな観光人材に相応しい教養の醸成を重視し「観光プロデュース論」「日本文化演習」などユニークな実践科目を配置するほか、グローバル・プログラムの導入を通じて国際化時代における言語面でのバリアフリー化を進めます。

ⅩⅢ 入 学 案 内

1. 入学時の諸経費等

(1) 入学料 282,000円

注． 入学料は本学所定の振込依頼書により，入学手続時までに納入してください。合格者に送付する入学手続案内で納入方法の詳細をお知らせします。

(2) 授業料 年間 535,800円（一期 267,900円）

注 1． 在学中に授業料の改定が行われた場合には，改定時から新授業料が適用されます。

注 2． 合格者に送付する入学手続案内で納入方法の詳細をお知らせします。

(3) その他諸経費

入学当初には入学料，授業料以外に次のとおり諸経費が必要です。

諸会費等経費	教育学部	経済学部	システム工学部	観光学部
学会費・同窓会費等	2,500円	—	—	10,000円
各種学生団体諸会費	20,500円	20,500円	20,500円	20,500円
合 計	23,000円	20,500円	20,500円	30,500円

※上記の金額はすべて平成27年度（2015年度）のものです。平成28年度（2016年度）入学者の納付金額については，決定次第，別途お知らせします。

(4) 入学料免除の制度

本学では，次の要件にいずれかに該当する場合は，本人の申請に基づき選考の上，入学料の全額または半額を免除する制度があります。

①入学前一年以内において本人の学資を主として負担する者（学資負担者）が死亡した場合

②入学前一年以内において本人若しくは学資負担者が風水害の災害を受けた場合

(5) 入学料徴収猶予の制度

本学では，次の要件にいずれかに該当する場合は，本人の申請に基づき選考の上，平成28年7月末日（入学年度の7月末日が日曜日にあたる時は前々日まで，土曜日にあたる時は前日まで）を限度として入学料の納入を猶予する制度があります。

①入学前一年以内において本人の学資を主として負担する者（学資負担者）が死亡した場合

②入学前一年以内において本人若しくは学資負担者が風水害の災害を受けた場合

③経済的理由により入学料の納付が困難であり，かつ学業優秀と認められる場合

(6) 授業料免除の制度

本学では，次の要件にいずれかに該当する場合は，本人の申請に基づき選考の上，授業料の全額または半額を免除する制度があります。

①入学前一年以内において本人の学資を主として負担する者（学資負担者）が死亡した場合

②入学前一年以内において本人若しくは学資負担者が風水害の災害を受けた場合

③経済的理由により授業料の納付が困難であり，かつ学業優秀と認められる場合

(7) 問い合わせ先

問い合わせ事項	問い合わせ先
入学料免除，入学料徴収猶予，授業料免除	学生センター（学生支援課） TEL 073-457-7122
外国人留学生の宿舎，奨学金，保険など	国際教育研究センター（国際交流室） TEL 073-457-7524